

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	インプロビゼーション1
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ドラム	開設期 前期
対象年次	1年	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 演習
教科書/教材	スティックコントロール、シンコペーション、ADVANCED CONCEPT、JACK DE JOHNETTE、その他			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	堀越彰	実務経験の有無・職種	有・プレイヤー	
<b>学習目的</b>				
<p>基本的な技術力と応用力を習得し、アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につける。演奏力の向上に一番大事な基礎力を重点的に行う。スティックの握り方、叩き方など、意識していなかったものを意識しながら、演奏することが大事になる。プロドラマーになる要素として、自分の演奏を細分化し、客観的に観る視点が大事になる。2年間を通じて、プロの現場で通用する、客観的な視点、アレンジする能力を習得する。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>スティックの握り方一つでサウンドは変化する。この授業では、ドラムの基礎を重点的に学び、自らのドラミングに即座に反映することを目的としている。1年次には、8ビート、16ビート、シャッフルビートの応用を習得し、毎回発表会形式で、自らのプレイを人前でプレイする機会をつくり、講師からフィードバックが戻る形式にしている。アクセントコントロールなど基礎中の基礎を時間をかけて行い、授業外の練習の重要性など、テクニック以外の考え方も伝える。</p>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	ドラムセットによる演奏の他に、ドラム練習台によるスティックコントロールに多くの時間を掛けます。ドラミングの基本は基礎。ドラムセットによるグルーブとフィルの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチを発表会形式で講師、学生の前で披露する。			
注意点	出席率を重視する。個々の目標に積極的に向かっていき、定期的にその目標が近づいているのかどうかを客観的に精査する。個人練習の時間をしっかり取ることも重要である。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験・課題	70%	試験結果による評価	
	小テスト	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	0%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	30%	授業態度による評価	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ガイダンス①	自分の得意楽曲を講師に聞かせる。課題点などを見つける		
2回	ガイダンス②	課題点に対して、練習方法や留意点を明確にして今後のレッスンの指標を明確にする		
3回	ガイダンス③	スティックの握り方、ドラム椅子の座り方、ペダルの踏み方、ドラムセットのセッティング方法を知る		
4回	キックの連打	キックを連打するテクニックを習得する		
5回	シングル・ストローク①	ゆっくりなテンポから徐々にテンポアップ		
6回	シングル・ストローク②	自分の最速テンポで叩き続ける練習		
7回	オープン・リムショット	リムとヘッドをほぼ同時に叩く感覚を習得する		
8回	クローズド・リムショット	スティックをヘッドの上に寝かせてリムだけを叩く感覚を習得する		
9回	ハイハットのサウンド・コントロール	左足を踏むタイミング、オープンクローズの時の手の動きを習得する		
10回	シンバルの叩き方	クラッシュシンバル、ライドシンバル、スプラッシュシンバルの叩き方を習得する		
11回	シンバルのサウンドコントロール	クラッシュシンバル、ライドシンバル、スプラッシュシンバルのサウンドコントロールを習得する		
12回	アクセントコントロール①	4分音符、8分音符のアクセントコントロールを習得する		
13回	アクセントコントロール②	16分音符のアクセントコントロールを習得する		
14回	アクセントコントロール③	4分音符、8分音符、16分音符を組み合わせたパターンのアクセントコントロールを習得する		
15回	セット全体でのアクセント・コントロール	ドラムセット全体でアクセントコントロールを習得する		